

## 「世界一美しい昆虫(3)」

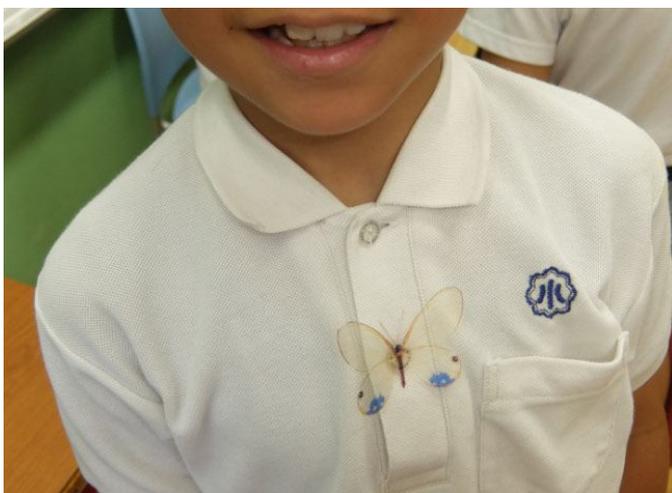
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

### (7) スカシジャンノメを体にとまらせる

アゲハの幼虫の模型を作らせた時も、子どもたちは自分の体にとまらせて遊んでいた。今回のスカシジャンノメは、翅が透明なので、胴体部分に小さな両面テープをつけて楽しんでいる子どもが多かった。



「ほら、ぼくのチョウは、指にとまったよ！」

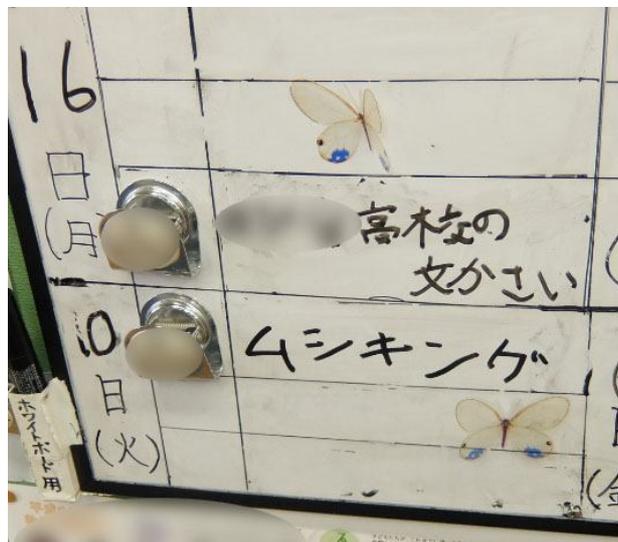


「ぼくのはシャツのボタンにうまくとまった！」

3年生の子どもでも、このスカシジャンノメが、透明なプラスチックの一種であるとわかっている。しかし、自分自身で慎重に切り抜き、単なる四角いフィルムから、美しいチョウの姿になった。更に、体にとまらせることで、模型が模型でなくなり、本物のチョウに変身するのだ。命が吹き込まれる一瞬といえる。

### (8) いろいろな場所にとまらせてみる

自分の体にとまらせたあとは、教室のいろいろな場所にとまらせて、その様子を観察する行動が見られた。スカシジャンノメの魅力は、もちろん翅の透明感だ。「どこにとめれば、翅が透き通っている感じに見えるか」ということを、楽しんでいただようだ。



「スピーチの掲示板」にとめたところ。



一番のヒットだったのが、教室の鉢植えの植物。

「わあ、本物だ！生きてるスカシジャンノメ！」  
「先生、これ写真撮っておいてください！」  
「自然のかくし絵(国語の教材)みたいだね」  
「何か、すぐ飛んでいきそうだね」

授業が終わると、子どもたちは一人一匹のスカシジャンノメを大切に「連れて」帰った。